

五 音読げきをしよう

木竜うるし (人形げき)

(2)

No. 3

名前

四年

組

四の場面を読んで、権八の気持ちの変化について考えましょう。

1 次の部分の権八の気持ちを想像して書きましょう。

権八 どうだ藤六、おらと二人で山分け

せんか。

藤六 おら、こんなたくさん、こまるわ。

それより、村のもん、連れてこよう。

権八 ……

藤六 おら、ばあさまと二人ぎりだで、

今のままのきこりだけでけっこようおま

んま食えるだでな。

権八 ……

藤六 けど、おらどうでもええ。おめえ

がほしけりや、一人で取るさ。なら、

おら帰るでよ。

権八 (考えていたが) 藤六よ。

藤六 ん？

権八 おめえは気立てのええやつだな

あ。

藤六 なんてや？

権八 (考えて) よし、村のもんを連れ

てこよう。

権八はもともと、どうして来たのだらう？ ↓ 藤六の様子を見て、

どう思ったのだらう？



2 なぜ、権八の気持ちは変わったのだと思うかを考えて書きましょう。

Blank writing area with vertical dashed lines.

⑤ 音読げきをしよう

木竜うるし (人形げき)

(1)

No.4

四年

組

名前

場面ごとに、出来事の大体をまとめ、藤六と権八の行動や会話から、そのときの気持ちや人物のせいかく、二人の関係などを考えて書きましよう。

五

の場面

(前の場面) 今までの

権八の様子を比べてみよう。

出来事

Blank box for writing the scene and incident.

行動や会話

気持ちやせいかく

二人の関係

「昨日まで仕事をなまけてた。よんべ目立てをしてくれて、ちうどありがたかった。ちゅうわけだ。」

ズイコズイコ

「みんな言うてしまふがな。おら、おめえと二人ギリでうるしを取らつと田心うと、ちゅうたけごな。めらうとだ。」



権八

「実はなんだ、おらがひとりにじめにしようと思っつて。」

「すまんすまん。おら、すっかりゆるいって、やっとよんべ目立て。ちゅうわけだ。」

ズイコズイコ

「そうか、おらあはれほどおったまげたことなかつた。」



藤六